

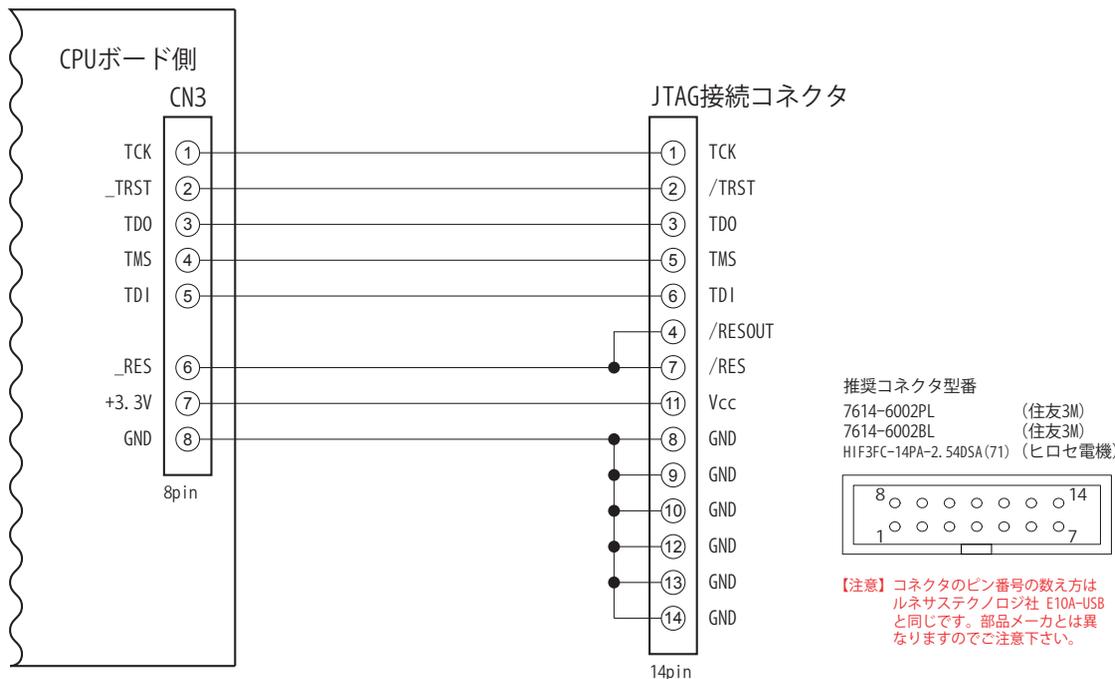
## ■はじめに

ここでは有限会社ビーリバーエレクトロニクス社製「BCH8SX1653」ボードで、ビットラン株式会社の JTAG デバッガ「DR-01」を使用する際の設定や注意点を説明致します。

## ■ JTAG コネクタの接続

この MCU ボードでは CN3 に JTAG 接続ポートが用意されていますが、デバッガ標準コネクタと異なるピン配置になっている為、別途コネクタ変換作業が必要となります。図 1 の接続図を参考に JTAG 接続コネクタを用意して下さい。

図 1. JTAG コネクタ接続図



### ※注意事項

MCU ボードと JTAG 接続コネクタまでの配線距離は出来るだけ短くして下さい。

長いとノイズの影響を受けてデバッガが正常に動作しない事があります。

特に TRST 信号には隣の TCK 信号のクロストークノイズが乗りやすいので注意が必要です。

## ■ MCU ボードの設定

- ジャンパススイッチの設定： JP1 の 1-2 をショート
- CPU 動作モード： MCU 動作モード 6 または 7 に対応。

### SW1 設定例

	SW1-1	SW1-2	SW1-3
MCU 動作モード	MDO	MD1	MD2
モード 6	ON	OFF	OFF
モード 7	OFF	OFF	OFF

# 「BCH8SX1653」ボードへの JTAG デバッグ接続方法

## ■デバッグソフトの設定

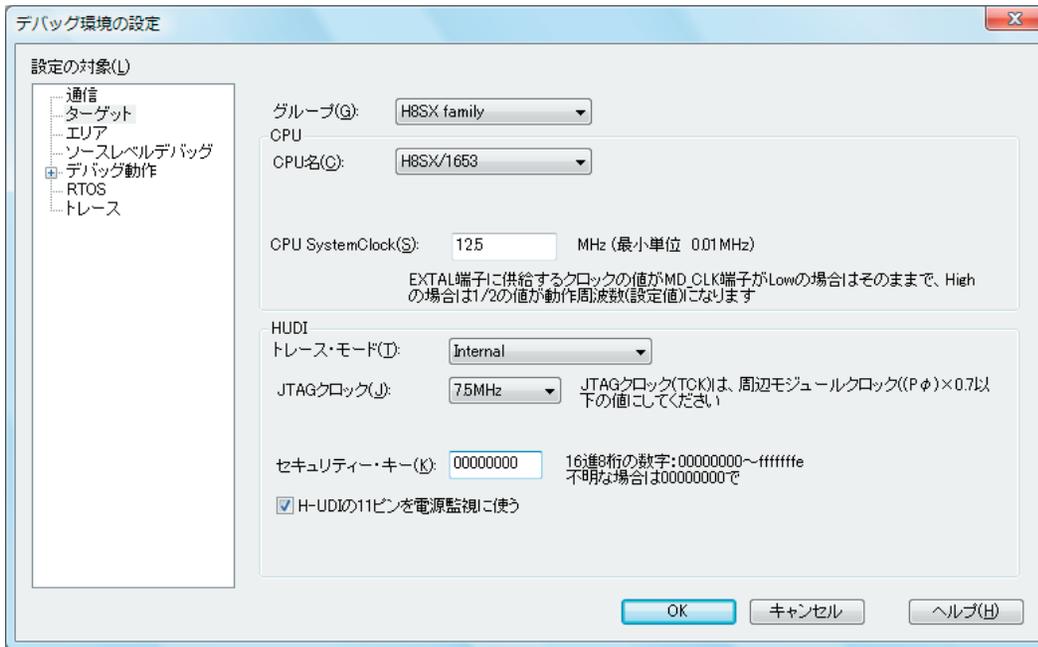
ビットランの JTAG デバッガ DR-01 では、次の 2 種類のデバッグソフトが使用出来ます。

ここではデバッグソフト毎に、「BCH8SX1653」ボードに合わせたデバッグ環境の設定例を紹介します。

### ① CodeStage の場合

CodeStage.exe を起動後、「デバッグ環境の設定」「ターゲット」項目を図 2 の様に設定します。

図 2. ターゲットの設定画面



### ② BITX-Neo の場合

1. 環境設定ユーティリティ NeoStart.exe を起動します。 [図 3]
2. 「ターゲットの設定」「JTAG の設定」項目を図 4 の様に設定します。

図 3. セットアップ・ユーティリティ起動画面

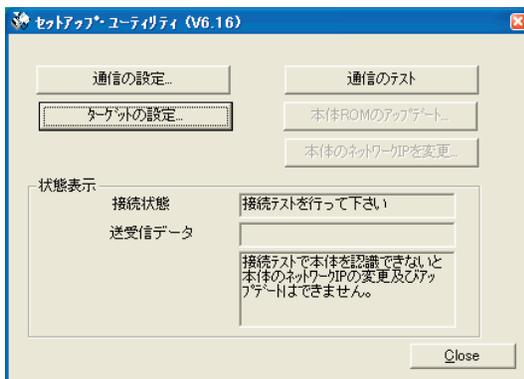


図 4. JTAG の設定画面

